

# 富士山がだんだん

## 高くなつた話

平成十三年四月五日号

伊豆急下田駅の北西に、「下田富士」と呼ばれる高さ百八十メートルほどの岩山があります。この下田富士は、富士山と姉妹であつたという言い伝えがあります。今回は、この姉妹の富士にまつわる話を紹介します。

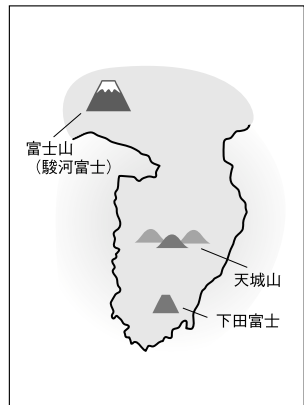
駿河富士と下田富士は姉妹でした。下田富士が姉で、駿河富士は妹です。とても仲よしで、小さいときからお互いにかばい合つてきました。

姉さんの下田富士は、いつでも妹の面倒を

よく見て、雨が降ればからかさ雲をかけてやり、風が吹けば長い雲の手を伸ばして覆つてやりました。

やがて、年がたつにつれて、駿河富士はだんだんと美しくなりました。長いすそをふもといっぱいに広げ、朝日夕日に輝くほおは紅色に染まつて、そのあでやかさには、だれもかないませんでした。

それに引きかえ姉の下田富士は、ごつごつしていて美人ではありませんでした。妹に比べて自分が美人でないことに気づいた下田富士は、娘心にそれがたまらない悲しみになつて、だんだん妹と顔を合わせなくなりました。





そして、とうとう伊豆と駿河の間に大きなびょうぶを立てて、妹がのぞいても見えないようにしてしまいました。そのびょうぶが天城山です。

妹は悲しそうに「お姉様！どうかお顔を見せてください」と叫びながら、つま先で立って背伸びをしました。でも、下田富士は妹の声を聞きながら、ますます体を縮めて顔を見せません。

そのため、下田富士はますます背が低くなり、逆に駿河富士はどんどん背が高くなり、とうとう日本一の高さの山になったということです。